



第3回市議会
定例会が開会

補正予算など
22議案を審議

9月1日、第3回市議会定例会が開会されました。

この日、会期を17日までと決めた後、人事案件1件を先議。人権擁護委員候補者に五島洋子氏(再任)を推薦することに同意しました。

続いて、平成26年度一般会計補正予算など21議案が一括上程され、小川市長が提案理由を説明しました。次に、「規制改革案に関する請願」が上程され、担当委員会に付託されました。

各議案は、担当委員会で審査のうえ、最終日の本会議で採決される予定です。

また、8日には、11人の議員から、市政全般についての一般質問も行われました。

上程された主な議案は、次のとおりです。

- ▷平成26年度補正予算(4件)
一般会計、国民健康保険事業会計、介護保険事業会計、病院事業会計
- ▷条例関係(8件)
市税条例等の一部改正、企業立地促進条例の一部改正など
- ▷平成25年度決算の認定(2件)
一般会計及び特別会計、公営企業会計
- ▷その他(7件)
請負契約の締結など



大規模地震に備え
総合防災訓練

— 非常時の初期対応や協力体制を再確認 —

9月1日の「防災の日」を前に、8月31日、南小学校で市総合防災訓練が行われ、地域住民や関係機関など約400人が参加しました。

訓練は、市内で最大震度6強の揺れを観測し、甚大な被害が発生しているとの想定。避難所となる同小学校のグラウンドに集まった参加者らは、倒壊家屋に閉じ込められた人を助ける救助訓練や、重症度に応じて治療、搬送順位を決めるトリアージのほか、避難所活動として、物資の受け取り

や給水活動、簡易トイレの設営など、本番さながらで訓練に取り組んでいました。

また、消防などの関係機関による救出訓練やライフライン復旧訓練なども行われ、近い将来に発生が予測される大規模地震に備え、非常時の初期対応の手順や各機関相互の協力体制を確認しました。

訓練終了後、小川市長は「災害は想定どおりには発生しない。災害に強いまちづくりへ今回の訓練を生かしてほしい」と話しました。

今一度、確認を!! ~防災ガイドブック~

広島県で発生した大規模な土砂災害をはじめ、全国各地で相次いでいる豪雨被害。本市においても、一昨年9月に発生した上石津町時山地区の土砂災害や、昨年9月の記録的な大雨など、地震と同様、豪雨災害はいつどこで起きてもおかしくありません。

こうした災害に対し適切な行動ができるよう、市は防災ガイドブックを作成しています。今一度、各家庭で、災害発生時の行動や避難方法などをご確認ください。※ガイドブックは今年7月に自治会を通じ全戸配布。市民サービスセンターなどでも配布中。詳しくは、生活安全課(☎47-7385)へ。



東北被災地を訪問して
大垣市長 小川 敏

7月16日、東日本大震災で大きな被害に遭った岩手県釜石市を訪問してきました。現在、釜石市へは、復旧復興活動のため岐阜県市長会から7名の職員を派遣しています。今回は、県市長会長として現地を訪問し、現状からの要請や意見を伺うと同時に、現状の把握や職員の激励などを行ってきました。

釜石市中心部の復興状況としては、大型スーパーや駐車場、復興住宅などが建設され、徐々にですが再開が進んでいます。しかし一方で、オリンピック景気に沸く東京に建築業者や資材が流れ、入札辞退業者が相次ぐとともに、工事費の高騰で事業規模を縮小せざるを得ず、思うように復興が進んでいない一面も見受けられました。さらに、最も被害の大きかった鶴住居地区においては、地盤の高上げ工事が始まるとはならず、復旧までにはかなり時間がかかりそうです。

現地からは、職員の長期派遣の要請がありました。私は、被災地への職員派遣は、単に復興を支援するだけではなく、実際に現地で防災体制や危機管理、復興事業を学ぶ貴重な体験になると考えています。今後とも職員派遣を継続していくとともに、県市長会で長期派遣を検討していきたいと思っています。

災害はいつ起こるか分かりません。今回の訪問で、私は、いざという時に対応できるように、一人一人の防災意識を高めることが大切だとあらためて感じました。市としても、防災訓練などを通して、市全体の防災意識の啓発に努めていきたいと思います。



鶴住居地区を視察する小川市長